

### かまどベンチで地域防災力強化へ

中村地区建設共同組合が12月8日(土)、大方中学校へ「かまどベンチ」を設置し、これを活用したイベントが行われました。

かまどベンチは、普段は椅子として利用し、災害時などには炊き出し用のかまどとして活用できるもので、これまで町内では三浦小学校と伊与喜小学校へ同組合より設置されており、「地域と学校が連携して防災力を高めてほしい」との願いを込め、大方中学校区の皆さんに対して寄贈されました。

当日は、大方中学校の生徒や教員、地域住民などが集まり、贈呈式を行った後、2・3年生を対象とした防災ミニ講座が開かれました。その後、寄贈されたかまどを使って1年生が調理したカレーライスと豚汁が参加者にふるまわれました。



かまどを活用しカレーを調理

校区を代表して寄贈を受けた浜の宮地区の松並勝区長は、「子どもたちと一緒に大事に活用しながら訓練をしていきたい」と話しました。

### 農事組合法人荷稻米・米クラブ 設立10周年記念

12月2日(日)に、荷稻集落を中心に活動を行っている「農事組合法人荷稻米・米クラブ」の設立10周年を記念した餅投げが行われました。

農事組合法人荷稻米・米クラブは、進む農家の高齢化、人口減少、米価の下落など、農業をとりまく環境の悪化が進む中、集落の農地の維持や活性化などを目的に、平成19年に集落営農組織を設立し、平成24年に幡多地域で初めて法人化を行った組織です。

活動の中では、高齢化により負担が大きくなった農作業を受託したり、農地の受け皿となるため経営面積拡大などを行い、周辺地域にとって必要不可欠な存在となっています。また、若い担い手を確保・育成する取組や施設園芸などによる複合経営の実施など、地域農業を守るためにさまざまな活動に挑戦しています。

今回の組織設立10周年記念は、2年に1度行っている収穫祭としての餅投げにあわせて実施し、日ごろから組織の活動を理解、後押しをしてきている周辺住民の方



同クラブによるもち投げ

などへの感謝の気持ちを込めて、組織が収穫したもち米で行いました。

組合長の森田さんは、「高齢化が進む中山間地域にとって、必要とされる組織づくりを行いたい」と話しました。

### 三浦小学校へ図書寄贈

黒潮町民ゴルフ大会実行委員会が11月26日(月)、三浦小学校へ約40冊の書籍を寄贈しました。

寄贈式は、同校の全校児童が参加する生活朝礼で行われ、図書委員が本の紹介をした後、同実行委員会の植田雄二事務局長から児童会副会長の三好勇斗さんへ書籍が受け渡されました。

この寄贈は、同実行委員会が開催した黒潮町民ゴルフ大会のチャリティ活動やそのほかの運営で集まった資金を子どもたちのために活用したいという思いから始まったもので、町内保育所、地域子育て支援センター、小学校の全10カ所へ書籍が寄贈されています。

今回は、児童書やレシピ本などさまざまな種類の書籍が寄贈され、今後は同校の図書館に設置される予定です。



植田事務局長の話を聞く児童ら

